



農林水産大臣賞典

第31回 クラスタークップ(JpnⅢ)

盛岡競馬場／3歳以上OP・ダート1200m

8月11日(祝・火)第10競走 17:05発走

クラスタークップはOROパーク盛岡競馬場がオープンした1996（平成8）年に設立。その第1回はグレードの無い交流重賞として実施されましたが、新しい盛岡競馬場での最初のJRA交流競走という事でも注目を集めました。翌年からGⅢ（2007年からJpnⅢ）に格付け。2007年・2008年には水沢ダート1400mで行われた後、2009年から再び盛岡ダート1200mに。レース名の由来は「星団」。各地の競馬場が連携し互いにしのぎを削りあい、そしてそれぞれが輝きを増す姿をイメージしたものです。

■スプラウティング(セン7 岩手・酒井仁厩舎)



今季ここまで5戦して2着3回3着2回。もう一步が届かずにいるのは確かとはいえ、昨年に比べればグンと層の厚みが増した短距離路線で昨年以上の堅実さ、昨年以上の勢いを感じさせているのは高く評価できる。昨年のこのレースでは9着だったが、酒井師が言うようにちょっと暑さには弱い馬、早くから猛暑が始まった昨年だけにその影響もあったのだろう。今年は比較的涼しさが続いただけに夏を迎えても好調キープというのは願ける。昨年以上の結果を期待したい。

最近になって暑くなったせいで少し元気がないかなと感じますが、涼しい夏のおかげで昨年よりはずっと良い状態で挑めそうです。（酒井仁調教師）

■クロジシジョー(牡7 JRA・岡田稲男厩舎)



一昨年のこのレースでは2着。その時は台風の影響での延期に加え、当日のコース傾向もその影響があったのかレースでは馬場の真ん中あたりを大きく回するようなスプリント戦としては珍しい展開に。その状況下、終始外々を回る形になりながらも勝ち馬を追い詰めた本馬の末脚は“負けて強し”の印象を残すものだった。それから2年、近走の着順から前回の参戦時ほどの勢いを感じないが斤量を背負っていた点・ベストの距離ではなかった点は考慮できる。重賞では2着4回と涙をのんできた。もう銀メダルでは終わらせない。

前走後は短期放牧に。帰厩後はここ目標に調教を重ねています。ベストの1200mを選んでここ目標に調整してきました。7歳になっても衰えを感じないし暑さにも強い。元気いっぱいです。(大林篤史調教助手)

■サンライズアムール(牡7 JRA・小林真也厩舎)



昨年の勝ち馬が連覇を狙って参戦する。その昨年は急遽の騎乗変更がありながらも高松亮騎手を背に逃げ切って自身の初タイトルを獲得。その後は東京盃・JBCスプリントで共に3着、勝利には及ばなかったとはいえ周りの左右や距離の長短にも対応しての上位突入なのだからむしろ本馬のスプリント性能の高さの証明と言えるだろう。7歳にして25戦のキャリアが示すとおり必ずしも常に順調という馬ではないのだが、そこも含めて陣営は手の内に入れているし、だからこそそれが昨年の勝利にも繋がった。その再現へ、そして10年ぶり史上2頭目の快挙達成へ。

前走後はいったん放牧に出しての調整。暑さに弱い方ですが手を尽くして対処していますし、昨年よりは順調かと思う。去年勝ったレースですから今年もしっかり結果を出したい。(小林真也調教師)

■ルコルセール(牡8 岩手・菅原勲厩舎)



この春に岩手に移籍して破竹の重賞4連勝、あっという間に短距離～マイル戦線の主役の座に就いた。前走の岩鷲賞出の勝利は、2馬身差は短距離戦としては完勝と言える着差だしそれでまだ余力もあった。とすればもう一段時計を詰める力もあると考えたいところ。何より調子を上げてきているという評価が心強い。「この馬の一番良い頃がどれほどだったかは分からないが、それでも今はそんな良い頃の状態に戻ってきているのではないか」と菅原勲師。掲示板争いには留まらない戦いを期待してみたい。

岩手に来てからの中でも良い状態になってきている。このメンバーが相手でも上位を争えるのではないかと期待をしています。(菅原勲調教師)

■クリダーム(牡6 岩手・佐藤雅彦厩舎)



JRAでは2歳新馬戦を勝利、2戦目の函館2歳Sでも2着に食い込む活躍を見せたがその後は1勝のみに留まっている。JRA時代には馬具を変えたり芝ダを変えてみたりと力量全発揮に苦心してきたことがうかがえるが、そうやって手を尽くしつつ3勝クラスで一定の成果を挙げつつあったのだから備える地力は高いと見ていいはず。実際、岩手でも転入初戦3着、早池峰賞で4着と逃げて存在感を示している。あくまでも気持ちよく自分の競馬をやりきれるか？ここでそれを買けるかがカギになるだろう。

前走の疲れはあまりなかったので連闘でも状態は変わりないですね。この後の適距離もないのでここに出走します。(佐藤雅彦調教師)

■ポッドバイダー(牡4 JRA・上原佑紀厩舎)



写真/JRA

2歳時に芝で結果を出したことで芝を主戦場にした時期が長かった本馬だったが陣営は早くからダート適性にも期待していたようだ。昨年9月のラジオ日本賞、初ダート戦がOP特別という条件にもかかわらずきっちり競り勝ったのはその頃の彼自身の充実度だけでなく秘めた適性の発揮という側面もあっただろう。重賞級ではなかなか自分の形で戦えないでいるがそれもあくまで成長の糧、これまでも壁にぶつかりながらも乗り越えてきた。そんな若武者の勢いは侮るべからず、だ。

■ルクスディライト(牝4 岩手・菅原学厩舎)



デビューは門別、そこから大井、門別、佐賀、そして岩手と転戦してきた、4歳ながら豊富なコース経験を持つ“ベテラン”だ。初勝利は門別の1100m、佐賀で挙げた勝利も900mでのもので、岩手でも好走は1200mまでの短距離に多い印象がある。これまで3度挑んだ重賞では大きな着順に終わっているがその時の距離はいずれも1400m、本馬の得意距離から外れていただろう事は念頭に置いておきたい。ベストと思える1200mで一歩でも前を目指そう。

最近の暑さがちょっと堪えてきたようで状態面は現状維持でしょう。左回りのワンターンや距離は良いと思いますし、あとは鞍上の頑張りにも期待します。(菅原学調教師)

■ボナンザ(牡6 大井・荒山勝徳厩舎)



写真/TCK (東京シティ競馬)

出走取消

■アンズアメ(牝4 JRA・高柳大輔厩舎)



写真/JRA

デビューは芝1800mだったが初勝利は3戦目のダート1400m。その後も距離を前後させつつクラスを上げつつ戦って昨冬から1200mに定着した。昨年11月に2勝クラスを突破してから7ヶ月でオープン特別を勝つまでになった勢いは高く評価すべきものだ。前走はハンデ戦で重賞級の実績を持つライバル達に比べて有利だったのは確かだし、一方今回はその斤量差がほとんど無い点には注意が必要だが、それもいずれ越えるべき課題のひとつ。伸び盛りの勢いでここも一気に駆け抜ける。

前走まではちょっと続けて使っていたので疲れも残っていましたが、しっかり休ませて、ここに向けては順調に來ています。良い結果を残せるよう頑張っていきたいですね。(高柳大輔調教師)

■チアフルヴォイス(牝5 岩手・小林俊彦厩舎)



昨年7月の岩手転入後は下級条件から4連勝、牝馬重賞ヴィーナススプリントでも2着に食い込んでA級に定着した。近況はなかなか白星を増やせずにいるとはいえ、最上位クラスの牡馬を相手にこれだけ安定して戦えるのは十分に立派なものだ。「ちょっとかかり気味に走る馬で地元馬同士だとどうしても前に行く形になってしまう。JRA時代は後方からの競馬をしていた馬だから、相手は強いがここでどこまでの末脚を使えるか?を見てみたい」と小林俊彦師。着順はどうあれ、この戦いはきっと今後の糧になるだろう。

こちらでは先行する競馬をしていたのですがJRA時代は差す形が多かった馬。強い相手にぶつけてみて、終いの脚をどれだけ使えるかを試してみたい。(小林俊彦調教師)

■クラスターカップ／過去5年の優勝馬



2025 優勝／サンライズアムール

栗毛 牡6歳
父／モーリス
母／ジルコニア（母父タイキシャトル）
生産／日高・下河辺牧場
馬主／(株)ライフハウス
調教師／小林真也 騎手／高松亮



2024 優勝／ドンフランキー

栗毛 牡5歳
父／ダイワメジャー
母／ウィーミスフランキー（母父Sunriver）
生産／安平・ノーザンファーム
馬主／早野 誠
調教師／齋藤崇史 騎手／池添謙一



2023 優勝／リメイク

栗毛 牡4歳
父／ラニ
母／サリエル（母父キングカメハメハ）
生産／新冠・株式会社ノースヒルズ
馬主／前田幸治
調教師／新谷功一 騎手／川田将雅



2022 優勝／オーロラテソーロ

栗毛 牡5歳
父／Malibu Moon
母／For Passion（母父Not for Love）
生産／米・John R. Penn & Spendthrift Farm
馬主／了徳寺健二ホールディングス株式会社
調教師／畠山吉宏 騎手／鮫島克駿



2021 優勝／リュウノユキナ

芦毛 牡6歳
父／ヴァーミリアン
母／ネオカラー（母父クロフネ）
生産／新ひだか・藤川ファーム
馬主／簗島竜一
調教師／小野次郎 騎手／柴田善臣